

飛騨ほうれんそう 魅力PR

J A全農岐阜「記念日」認定でイベント



「夏ほうれんそうの日」に飛騨ほうれんそうをPRする生産者＝各務原市那加萱場町、イオンスタイル各務原インター

全国農業協同組合連合会
県本部(J A全農岐阜)が
6月6日を「夏ほうれんそ
うの日」として定めたのを
記念したイベントが同日、
各務原市那加萱場町のイオ
ンスタイル各務原インター

で開かれ、高山蔬菜出荷組
合の生産者が飛騨地域の特
産「飛騨ほうれんそう」を
PRした。
飛騨ほうれんそうは、同
組合の上部組織、飛騨蔬菜
出荷組合では約260人が

生産し、3～12月に約54
00トを全国に出荷してい
る。ホウレンソウは冬が旬
だが、同地域は冷涼な気候
であることから夏場の一大
産地となっている。

J A全農岐阜は消費拡大
を目指し、出荷量が増える
時期で、6をリヨク(緑)
と読む語呂合わせから、6
月6日を夏ほうれんそうの
日として日本記念日協会に
申請し、先月認定された。

イベントでは飛騨ほうれ
んそうの生産者らが特設コ
ーナーに立ち、買い物客が
足を止めて鮮やかな緑色の
ホウレンソウを手にしてい
た。高山蔬菜出荷組合の宮
田晃組合長(52)は「今年は
雪解けが早く、出荷量も前
年より多い。夏場に向け、
消費者に届けられるよう一
生懸命頑張りたい」と話し
た。

イベントは本巣郡北方町
のイオンスタイル岐阜北方
でも開かれた。(野田祐治)